

ベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeister, 1839) 羽化個体観察

東 輝弥¹⁾

1. はじめに

2024 年 9 月 28 日にナニワトンボ確認のために赤穂郡上郡町岩木の船谷池に行った(写真 1)。すると見慣れないトンボの未熟個体が静止していたので写真を撮っておいた(写真 2)。帰宅してから図鑑で確認するとベニトンボであった。なお当日確認した個体数は 5 ♂ 2 ♀ で内 2 ♂ を採集した。30 日にまだ移動せずにいるかもしれないと思い観察に出かけたら、新たに今日羽化したばかりの 2 ♂ 1 ♀ 個体を発見した。またこの日には、成熟 1 ♂ が池に張り出した木の枝に縄張り飛翔のためにいるのを目撃し写真撮影をした(写真 3)。成熟個体の記録は多くありますが羽化直後の成虫の記録はあまり無いように思うので参考になればと思い報告します。

2. 船谷池におけるベニトンボの羽化状況

2024 年 9 月 28 日に 5 ♂ 2 ♀ を確認したそのうち 1 ♂ は羽化して大分時間が経っている居るようで体色の変化が進んでいた。また 1 ♀ は羽化して初飛翔してきたばかりの体色が薄い個体が居た。他の個体は数時間経っている模様で体色の変化が見られた。

9 月 30 日には羽化して数時間経っている 2 ♂ 1 ♀ 個体を確認した、そして成熟した 1 ♂ が縄張り飛翔しているのを確認した。

10 月 5 日にもまだ羽化している個体があるのではないかと思います観察に出かけたところ、羽化後数時間経っている個体 3 ♂ 4 ♀ と成熟個体 1 ♂ の計 8 個体を確認することが出来た。成熟個体は 9 月 30 日に確認した個体がそのまま移動せずにいたと思われた。観察した個体は 1 ♂ を除いて当日羽化した個体ばかりで数日経っている個体を見つけることは出来なかった。また、10 月 9 日にも 1 ♂ 1 ♀ を確認したが、成熟 ♂ は見つからなかった。

この船谷池で確認できた個体数は計 10 ♂ 8 ♀ で、観察に行っていない日にも羽化はしていると思われるので、全体としては相当な数の個体が羽化したと思われる。なお、念のために 10 月 17 日にも観察に行ったが見つかる事は出来なかった。

当池で羽化した個体は帰ってくるのか、池から離れた個体はそのまま他の地域移動してしまうのか不明である。

姫路市飾東町の新池では、2022 年 9 月 24 日から 10 月 5 日まで本種が飛来していたが、2023 年は飛来が無かった。しかし、2024 年は 10 月 9 日から 10 月 12 日まで成熟 ♂ が飛来し、10 月 25 日には羽化したての 1 ♂ を発見し採集をした(写真 4)。

3. ベニトンボについて

本種は南方系の種であって近年棲息域を拡大中の種である。当県でも棲息地が増えてきているが、生態に関しては不明な点がある。

図鑑等の解説によると卵期は 1～2 週間で幼虫期間は 3～8 ヶ月程度で年間発生回数は 1～多世代となっている。当地では水温の関係で幼虫越冬は無理と思われるが卵越冬ならば可能かもしれない。卵越冬したとして 4 月に孵化して 9 月に羽化したとすれば、幼虫期間は 5 ヶ月であるから可能性はある。5 月から 6 月に飛来し産卵している可能性もあるが、当地の気温と幼虫期間を考慮すると、少し無理があるように思われる。

未熟個体は棲息水域近くの草むら、林縁等にいるように書かれている。当池においても草むらにいて、特に背の低い藷草等の先に止まっていた(写真 5-6)。9 月 30 日に成熟個体が現れたのは当池から発生した個体でなく、他の地域で発生した個体が飛来したと思われる。

近隣府県では大阪府・和歌山県・奈良県・滋賀県からの報告が有り、また岡山県からも報告が有る。特に大阪府・和歌山県の棲息状況の詳しい記録が Gracile 78,79 にて報告されている(山本・西浦, 2018; 西浦, 2019)。また、奈良県におけるベニトンボの記録と生態観察の詳しい観察記録が Gracile 81,82 及び関西トンボ談話会の連絡誌 2024-2 において報告されている(片谷・片谷, 2021; 片谷・片谷, 2023; 片谷, 2024)。

¹⁾ Teruya AZUMA 兵庫県高砂市



写真 1. 船谷池.



写真 2. 未熟個体.



写真 3. 成熟♂.



写真 4. 羽化したての個体.



写真 5. 羽化したての個体が止まっていた場所.



写真 6. 羽化したての個体.

4. 考察

ベニトンボは播磨地域でも定着の可能性が高まってきたが羽化した個体が発生した池に帰って来ていない, そのまま他の地域に移動してしまうのか現在のところ不明である. 移動の時期も, 未熟期か成熟してからか不明である. 羽化してから成熟するまでの期間が不明なので観察を続ける必要がある.

5. 参考文献

東 輝弥・三浦喜太郎・糸数幸高, 2022. 兵庫県播磨地域の 4 ケ所でベニトンボ確認. きべりはむし, 45(2): 59-60.
石田真哉・石田哲哉, 2019. 姫路市初記録となるベニトンボ採集. きべりはむし, 42(2): 63-64.
稲畑憲昭, 2017. 淡路初記録となるベニトンボを採集. きべりはむし, 40(1): 40-41.

尾園暁・川島逸郎・二橋 亮, 2012. ネイチャーガイド 日本のトンボ. 文一総合出版.
片谷直治・片谷俊彦, 2021. 奈良県におけるベニトンボの記録. Gracile, 81: 1-9.
片谷直樹・片谷俊彦, 2023. 2021 年の奈良県におけるベニトンボの記録. Gracile, 82: 26-41.
片谷直治, 2024. ベニトンボのマーキング調査(奈良県). 関西トンボ談話会の連絡誌, 2024-2: 2-4.
杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司, 1999. 日本トンボ幼虫・成虫大図鑑. 北海道大学図書刊行会.
杉村光俊・小坂一章・吉田一夫・大浜祥治, 2008. 中国・四国のトンボ図鑑. いかだ社.
杉村光俊・吉田一夫・山本哲央・大浜祥治, 2023. 中国・近畿のトンボで解る快適環境. いかだ社.
西浦信明, 2019. 大阪府と和歌山市のベニトンボ. 続報.

Gracile, 79 : 1-4.

浜田康・井上清, 1985. 日本産トンボ大図鑑 II 解説編.
講談社.

三浦喜太郎, 2019. ベニトンボ加西市で撮影. きべり
はむし, 42(2) : 64.

村木明雄・落合修一, 2024. 滋賀県初記録のベニトンボ.
Gracile, 83 : 1-4.

村重 隆, 2018. 神戸市でベニトンボを採集. Gracile ,
78 : 23.

山本哲央・西浦信明, 2018. 大阪府でベニトンボ確認.
Gracile, 78 : 19-22.